

## 陸上競技(短距離)プログラム報告 2011年1月22日プログラム

日付: 2011 年 1 月 24 日 (月曜日)

分類: [手記](#)



今回のプログラムはSONS駅伝の予行演習となるため、通常のプログラムは二月の第四土曜日(二十六日)までない事になります。それで今回は其処まで待ったら見頃を失うかも知れない植物を見ておくことにしました。

それは薬用植物園に生えている南京黄櫨です。八日のプログラムの時にはすっかり落葉した枝に白いロウ粉に包まれた種子を付けていました。見上げる冬晴れの空に映える純白の種子は中々の見物でしたが、新年のスタートのプログラムと云うことで、スターティングブロックに順番を譲りました。でも何時までもつか、其処が問題です。出来るだけ早く、と云うことで今回になりました。

勿論配布プリントはこの南京黄櫨で作りました。中国原産の落葉高木で樹高は15メートルほどになります。南京黄櫨の名前は黄櫨の木(福祉村では東のローラースケート・リンクの所に生えています)のように蠟が採れる事から付けられたもので、近縁種と云うわけではありません。

花には蜂や蝶、てんとう虫などが群がり、葉は染料に使われ、種子はヒヨドリなどが食べに来ますが、種子の内部のアブラは有毒だそうです。

ここ↑で『ヒヨドリなどが』と書きましたが、この『など』の中の椋鳥が問題を起こしました。成人の日当たりから大挙して飛来し、三日もしないうちにすっかり食べてしまったのです。今南京黄櫨の木は裸になった枯れ枝を北風に曝しています。

これではウオーキングのターゲットには使えません。せっかく作ったプリント原稿ですが、ディスクの奥の方に仕舞い込んで、一年後の出番を待ってもらうことにしました。

代打は『いろは楓』です。櫨荘近くの万葉植物園に生えています。鮮やかだった紅葉もここへ来て多少色褪せていますが、木の葉のことですから小鳥に啄ばまれることもありません。何とか間に合わせて今日を迎えました。

さてウオーキングですが、今回はトップ集団と一緒に歩く役割を滋賀コーチにお願いして、私は先に、万葉植物園の近くのベンチに素知らぬ顔で座っていました。誰かが見付けてくれるだろうか。アスリートたちの注意力のテストも前回より大分難度を上げてみました。

待つこと暫し、やがてトップ集団が見えてきました。先頭は前回同様にM君でした。五十メートルも離れていたでしょうか。私を見つけて大声を上げました。

「中村コーチだ！」

笑顔も前回と同じです。お見事。

彼らをつれて五十メートル程歩いて、いろは楓の前に立ちました。

「これがプリントに書きたいろは楓です。プリントの画像もここで撮りました」

聞いているアスリートたちの顔がつまらなそうです。『何だ、普通の紅葉じゃないか』そんな顔付きです。

「普通に楓とか紅葉とか言われる物の殆どがこのいろは楓なんだ」

こんな説明を加えてみましたが無駄でした。こうなっては逃げの一手。這う這うの体でその場を離れてジョギングコースに戻りました。

其処からスタート地点までは約六百メートル。何時ものように最後はゆっくり走ってもらってウォーミングアップを終わりました。

ウォーミングアップの後は二千メートル(一部半周強のアスリートを含む)の記録をとり、その後、SONS駅伝と同じ区間構成で襷の受け渡しの練習を兼ねたリレーを走り、十二時五分に最終走者がゴールした後はSON埼玉のエールとストレッチで本日のプログラムを無事終了しました。

中 村 泰 雄

注:一部人名をイニシャルに変換して掲載しております。